

令和6年度第1回海上の森運営協議会 議事録

日 時：令和7年10月1日（火）

10:00～12:06

場 所：あいち海上の森センター研修室

出席者：委員9名、事務局8名

（傍聴者1名、記者0名）

1 あいさつ

あいち海上の森センター所長 藤野 繁春

2 座長選出、座長あいさつ

高野委員選出、あいさつ

3 協議事項等

（1）報告事項

ア 令和6年度海上の森保全活用事業の取組状況について（資料1）

イ 海上の森自然環境保全地域維持管理事業について（資料2）

（2）協議事項

ア 海上の森保全活用計画2025の進捗管理について（資料3）

イ 第3次海上の森保全活用計画の策定について（資料4）

（3）その他

「(1) 報告事項 ア (資料1)」について事務局より説明

【座長】 はい、ありがとうございます。ここまでで、ご意見・ご質問いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【〇〇委員】 最後の「海上の森アカデミー」のところの自然教育コースの内容を変えられたとのことですけれど、これは参加者の方から要望があって変えたという感じですか。

【事務局】 参加者からというよりは、ここで色々企業連携などで活動していただいている方々とか団体の方からもちょくちょく声がありまして、コーディネーターをされている〇〇さんと相談しまして、内容を変えさせていただきました。

【〇〇委員】 割と具体的に要望に対して取り入れたということですかね、実際に企業連携なんかでここにみえた方々の。

【事務局】 そうですね、はい。

【座長】 割と専門的な内容になっていますね。

【〇〇委員】 関連してなんですけど、いいですか。

【座長】 どうぞ。

【〇〇委員】 今の話で、団体などから相談を受けるということで、受けた場合に、この自然教育コースというのが元々は個人に対しての教育プログラムになっているんですけど、団体に対して行うのか、それとも団体の中で自然教育みたいなのを指導する立場の人に行うのか。

【事務局】 団体でも皆さんに説明できるような方、ということで、個人でそういうことをやられる方ももちろんいいと思いますし。

【〇〇委員】 個人でも、例えば環境教育のリーダー的な、指導者的な人を育てる、みたいなことが今はメイン、ということですか。

【事務局】 そうですね。

【〇〇委員】 ありがとうございます。

【座長】 はい、他にいかがでしょう。

【〇〇委員】 「愛知万博 20 周年記念イベント」ですけど、今挙げられているのは今年度やられる、ということですかね。来年度はまだ具体的には決まっていないですか。

【事務局】 そうですね、今のところまだ来年度については予算を要望している段階なのですけれども、今年度はこの 3 件は予算がついているので「来年度もつくはずだね」という感じではおるのですけれども、来年度についてはまだ要望している段階なので。

【〇〇委員】この「ロゲイニング」というのは今年度中にある程度形が決まって、3月くらいからスタート、ということですか。

【事務局】企画としては1日の企画でして、その期間ずっとやるわけではないです。

【〇〇委員】うちのほうも、「あいち海上の森フォーラム」で、何か来年度記念事業をやっていきたいなと思っておりますので、また具体的に何か教えてほしいんですけど。今考えているのは「海上の森ウォーク」ですね、参加していただいて、以前とどういうふうに変ったかとかを見てもらうような企画をしたいなと考えておりますけれども。またご協力いただきたいなと。

【事務局】海上の森ウォーキングですか。

【〇〇委員】ウォーク、ウォーキングですね。

【座長】それはいつごろやられる感じですか。

【〇〇委員】期間中ですよ。9月25日までですよ、期間。ですから9月中にやればと思っておりますけれど。よろしくお願いします。

【座長】はい、ありがとうございます。他にいかがでしょう。
今年は「里と森の教室」はどれくらい参加者がいらっしゃいましたか。

【〇〇委員】だいたい40人くらいです。

【座長】40人くらい。

【〇〇委員】ですけど、実際は半分くらいの家族が参加しての活動になっております。

【座長】今年も順調に。

【〇〇委員】順調にっています。ただ今年は雨が多かったり暑かったりしたので、皆さん出て来られない。雨の日は順延すると予定が変わっちゃうので、そういうところが問題。日を改めるんですけど、予定が組んであるとかあるので、そういうところじゃないかなと思いますね。

【座長】稲刈りはこれからですか。

【〇〇委員】稲刈りはこの前の日曜日にやりました。前日、前々日が雨だったものですか、濡れた稲を刈っているような感じだったんですけど、今日は天気いいので乾くぞ、ということでやっています。脱穀は来週だったかな、13日だったかな。

【〇〇委員】13日です。

【〇〇委員】13日に脱穀の予定はしていますが、少量なものですからね。脱穀して精米してもらうところが、少量でもやってもらえるところが少ないものですから、さてど

うしたものかと。そういう悩みがあります。もし誰か来られるのであれば、協力いただけるとありがたいなと思っております。

【座長】 はい、ありがとうございます。他にいかがでしょう。よろしいですか。

海上の森アカデミーは、今の保全活用計画とともにうまれて、10年やってきたんですよ。その中で「森女養成コース」はあまり内容変わっていないと思うのですが、あとの2つは割となんやかんや変わってきて今に至っている、ということだと思えますね。今回「森の自然教育コース」もかなり衣替えしたということで、これも評価して、次の10年をどうするかということを考えていく必要があるのかなと思いますけれど、でもそういう要望が出てくるのはとてもいいですよ。そういうふうに行っていけばいいかなと思います。ありがとうございます。

では、また何かあったらあとで指摘いただくようにして、資料2の自然環境保全のご報告をお願いします。

「(1) 報告事項 イ (資料2)」について事務局より説明

【座長】 はい、ありがとうございました。では、今のところ、どこからでもご質問・ご意見をお願いします。

あの、〇〇先生に「おんぶにだっこ」みたいな感じになっているんですけど、〇〇先生との関係は、県から委託を出しているとか、そういうことはあるんですか。

【事務局】 委託を出しているということはないと思うのですが、最初は湿地でお話があったと思うのですが、そのつながりで色々とお話をいただいて活動していただいているという形ですね。

【座長】 では特に委託とかそういう形ではなくて、費用も〇〇先生のところが自前で出している感じなんですね。

【事務局】 そうですね。

【座長】 大変ありがたいんだけど、〇〇先生のところも学生がいればできるけれど、学生がたまたま少ないとできないとか、そういう事情もあるんじゃないのかな。何か、これだけお世話になるんだったら、何らかこう、きちんとした環境を考えたほうがいいんじゃないのかなという気がいましたけれど。

【事務局】 はい、そうですね。ありがとうございます。

【座長】 はい。他にいかがでしょうか。

【〇〇委員】 シデコブシだとかスミレサイシンの保全活動のところは、野生動植物保護地

区になっているとのことなんですけれど、その中でもここは経年的に調査されているんですけれども、他にも自生区ってあるんですか。あるいは、本当にそこにしかないんですか。

【事務局】保護区の中だと、保護活動を行っているところ以外でもシデコブシが生えているところはあるんですけれども、作業するにあたって大和リースさんと協働でやらせていただいているんですけれども、崖地に近いような場所であったりだとか、作業の安全性が確保できないところについては保全作業ができない、ということになります。

【〇〇委員】保全作業をしていない自生地状況というのはやっぱりどんどん減っていつているのか、どういう感じなんですかね。

【事務局】調査は・・・

【座長】それはセンターしか分からないんじゃないですかね。

【事務局】そうですね、環境調査センターが調査しているところはあると思うのですが、やはり木が増えている状態ではあります。ただ、ちょっと崖地なので作業はできないといえますか、すみません。

【座長】保護地区以外の場所にもあるんですよね、シデコブシ。

【事務局】シデコブシが生えている場所自体は、他にもあちらこちらにございます。

【座長】だけどそのへんの状況がどうか、ということはわかりませんか。特にモニターしているわけじゃないですか。

【事務局】そうですね、開花したりしているのは確認しておりますけれども、特にモニタリング等を行っていないですね。

【座長】あの、僕の感触では「意外と頑張っているな」という感じがしますが、意外となくなっていないな、という。どうですか、そういう感触がしていますけれど。

【事務局】そうですね、私もそういう感覚を持っています、意外と条件が悪いところでもシデコブシは生えるものですから、他の植物が入ってこないんじゃないかな、という感覚があります。〇〇先生にもシデコブシの維持管理をやっていただいていた、今回はたまたま必要ないということで作業していないんですけれども、湿った、厳しい状況でも咲く植物という事で、他の植物が入って来にくい、という条件にあるということです。その代わり木の形はすごく悪くて、変な形をしているのですが、「意外としぶとい」と言っておかしいのですが、残っているものだなと。すぐなくなってしまうような感覚がするのですが、木本ですので意外と根を張って強いのかなと。花の咲く時期になるとあちこちでみられて、やっぱりあるんですね。花が咲いていないとあまり目立たないものですからあまり皆さん関心がないのですが、意外に残っているなという感覚を私も持っています。

【座長】今回も萌芽しているのがたくさんあったということで、しぶとく生きているのかなと思います。

はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【〇〇委員】今おっしゃっていることなんですけれども、この決められた区画以外のところ、まさに自然というものは移り変わっていくものですし、たぶんこの湿地の保全地区についてもですね、ここだけに固執してずっとここだけ保全していくよりも、ここの近くにシデコブシがあったりするのであれば、そちらのほうに柔軟に保護地区を移すというか、人間の力を投入する場所をずらしていてもいいんじゃないか、というのがあっていいかなと思いました。

【座長】はい。そのへんいかがですか。

【事務局】はい、ありがとうございます。また持ち帰らせていただきまして、中で検討させていただきます。

【座長】はい。他にいかがでしょうか。

【〇〇委員】スミレサイシンの生育状況でこのグラフが載っていますが、これをぱっと見ると、除草区と対照区と比べると、対照区のほうが開花株数なんかが多いような気がするんですけれども。あまり除草の効果がないということなのか、どういうことでしょうかね。

【事務局】はい、その除草区と対照区についてなのですが、今までの結果からですね、除草についてしっかり効果があるというようなことが読み取れないようなところがありまして、それを受けて2023年度は木を伐採して日照を改善したということがあります。

【座長】除草というのは、夏の除草という意味ですか。

【事務局】除草はそうですね、9月ごろに行っているんですけれども。

【座長】鎌で刈っているんですか。

【事務局】そうですね、コドラート内を鎌なり手なりでやっているところではありますけれども。

【座長】それは何か解釈がありますか。除草してもしなくても一緒ですか。

【事務局】そうですね、それはわからないというところが正直なところでございます。あの「日陰にならないほうがいい」というのは間違いないと思いますので、効果がないわけではないとは思われるのですが、限定的で。

【座長】除草しても日陰になってしまう。

【事務局】そうですね、元々木があったところですので、そういったところもあるのかな

と。なので、木を伐って日照改善をしようというところですね。

【座長】毎回この図が出てくるんですけど、どう解釈していいのかがよくわからないので、何かある程度解釈も一緒に述べていただくといいかなと思います。

【〇〇委員】除草でかえって植物体を傷つけてしまう、ということもあるんですか。

【事務局】2017年度まで冬の落ち葉の除去を行っていたときに、「根を傷つけていたのではないか」という指摘がありまして、2017年度の結果のところだと、落ち葉を掻く作業をやったところの除草区も対照区も開花の割合が高くなったというところもありまして、そういったところも改善としては考えられるのかなと思います。

【座長】もう少し、どういう草が入ってそれを除去したとか、そういう情報があると解釈できるかなと思います。できたらもう少し情報をください。

はい、他にいかがでしょうか。

【〇〇委員】動物カメラを設置している、とありますけれど、これの結果はどうか。

【事務局】すみません、ちょっとそちらはまだ確認していないところです。

【〇〇委員】カメラは設置してある。

【事務局】そうですね、はい。

【座長】イノシシは豚熱で一時期減ったけれど、また復活していると思うのですが。僕のほう、〇〇のほうはもうすごいです。すごいイノシシが出てくるんですけど、そのへんはどうなんですか。多いですか。また増えてきた感じですかね。野生動物が増えることはいいことなんですけれど、こういう保全に対してはやっぱりだんだん考えないといけなくなってくるかもしれないですね。

はい、ありがとうございます。

あの屋戸川の湿地の保全、海上の森の会さんのほうも参加されているとのことですが、何人くらい、どんな感じで参加されているんですか。

【事務局】合計で30名くらい、というところしか。

【座長】合計30名くらい、というところしかわからない、ということですね。

【事務局】そうですね。

【座長】はい。あとはいかがでしょうか。よろしいですか。

また、これも何かあればいつでも言っていただくことにして、では協議事項ということで資料3の保全活用計画の進捗管理ということで、ご説明をお願いいたします。

「(2) 協議事項 ア(資料3)」について事務局より説明

【座長】 はい、ありがとうございます。では、どこからでもご質問・ご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

【〇〇委員】 シンポジウム等のところ、「今年度は持ち込み企画なしだった」ということなんですけれども、瀬戸市内にイベントチラシを配布したりとかいろんなことをやっていらっしゃるのに、ないと。野外講座とかは問合せが多いなとおっしゃっていたんですけれども、この持ち込み企画がない原因というのは何なのだろうかなと。

【事務局】 イベントに参加したい、という方はたくさんいらっしゃるということなんですけれども、みんなの前で「こういうのを発表したいんだけど」というような、専門家の方から「こういうのをやりたい」というのがなかなか出てきていただけていないかなと。

【〇〇委員】 ハードルが高いのか、発信そのものが弱いのか、何かしらあると思うのですが。個人に言われても企画含めて「はいはい」という人はいないでしょうし、情報を出す力と方向と、何かしらもうちょっと違う方向に考えないと来ないかもしれないですね。どうしていいかわからないですけれど。

【座長】 持ち込み企画、というのはどういうイメージですか。今までもあったんですか。

【事務局】 そうですね、「こういうことを話したいんだけど」というような話があつて。

【座長】 講座で何かレクチャーしたい、という。

【事務局】 そうですね。そういうのがあれば「じゃあやりましょうか」ということでミニセミナーとしてやっていきたいと思っているんですけれど。

【座長】 ミニセミナー。それは主催はセンターでやるということなんですかね。

【事務局】 そうですね、資料作ったりなどは。

【〇〇委員】 個人で参加してもいいんですか。本人がそういうのをやりたいと言えど。要は独自に山の中に入って、独自の生物調査をやって、何かあれば必ず講義をする人がうちの会にいるんですけれど、その人が実は瀬戸に住んでいる人なんですけれど、やりたいような気がするんですけれどね。だからその人が知らないということは、そういう情報がいないのかなと。SNS とかせっかくあるので、

【事務局】 そうですね、そういうのは発信していないかもしれないですね。

【〇〇委員】 別の事は発信しているけれども、これについては発信していないかもしれないということですね。

【事務局】 そうですね。

【〇〇委員】 以前からミニセミナーはやっていましたよね。

【事務局】そうですね、はい。

【〇〇委員】それはどういう形でやっていたんですか。向こうからなのか、こちらから働きかけたのか。きのこだとかね。

【事務局】そうですね、うちのほうが「こういう人を知っている」というのでうまくできた部分があったのかもしれないですけど、なかなか今そういう方々とは。

【〇〇委員】募集はしているんですか。情報発信している？

【事務局】そうですね、ちょっとできていないかもしれないです。

【座長】ここもね、次期計画で見直すべきところかもしれないけど、もっと積極的に「ミニセミナー講師募集」みたいな形で募集してもいいかもしれないし、主催がセンターじゃなくて自分たちが主催したい企画を持ち込んでもらうというのも大いに結構だと思いますので、なんかそういうふうにするといいかなと思いました。
はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【〇〇委員】「学外講義・野外学習」のところで、札幌市立大学生が、これはおみえになったということですかね。それから名古屋大学1年生の講義、これはどういうものですか。それとその、札幌の方がどういうきっかけでこちらにいらっしゃったのか。

【事務局】はい。札幌市立大学の方々は、デザインとかの勉強をされている方々で、モリコロパークを中心に「愛知万博をやって実際その後どういうふうに変ってきているのか」というふうなところを調査したい、というところで、いくつかのグループの中の1グループが海上の森に来て、どういう経緯だったのか、とかそういうような話を聞きに来られました。講義の時には万博の頃の話と今の話をあわせて「万博のときはこういう形で進んできて、今はこういうことをやっているんですよ」というような話をしています。名古屋大学の1年生に関しましては、海上の森自体を全く知らないものですから、海上の森全体の説明をした後に遊歩施設等をめぐる、というような内容となっております。だいたい午前中をかけて行っております。

【事務局】大学の必須の講座の中の1コマですね。うちに来て、現地実習と言う形で見学したり講義を受けたり。1年生の一番最初の現地実習みたいです。

【〇〇委員】はい、ありがとうございます。

【座長】はい、他にいかがでしょうか。

【〇〇委員】この2025年の進捗管理についてなんですけれど、いろんな課題がどんどん出てくると思うのですけれど、今、令和6年度、というよりは今後に向けてこの各項目が自立しているとか独立しているとかそういう感じですけど、例えばこれがリンクさせて実施していくような方向性を考えるといいのかな、なんて。その1つの例としては、普及や情報発信では「NPOの人たちがたくさん集まっているよ、でも手を挙げ

て何かシンポジウムをやりたいよという人のエントリーはない」とか。そういった部分をうまくリンクさせて同時開催して午前と午後でやってみるとか、何かそういう、他にも学校連携がありますけれど、いろんなものがリンクさせてやることで相乗効果というものが得られるようなパターンというか、あのずっとこのパターンできていますので、少しそういう「つきあわせる」というのでより良い効果を生むのはどれとどれの組み合わせなんだろう、というのを考えるのも良いのかな、なんて見ていました。以上です。

【事務局】ありがとうございます。実は次の10年計画、海上の森保全活用計画を作るときもそういった発想で作ったらいいなということで、色んな講座をやっているのですが、でも「講座に参加したらそれで終わり」みたいな感じになっていて、例えば幼稚園の時に来たら今度小学生の講座になるべく入っていただくような話をするとか、講座と講座の連携性をとらせて、学校の小中一貫校のような形でカリキュラムとか講座を組めたらいいなと考えております。できれば幼稚園のときに参加したとか小学校のときに参加した人には、指導者じゃないですけど、リーダーみたいな感じで子供を仕切ってくれるような感じができればいいかなと。本当に理想みたいな話ですけども、そういったことも今考えておりますので、また次期保全活用計画の中で意見をいただければ非常にありがたいと思います。

【座長】大人もそうですよね、講座受けてからここで活動して。

【事務局】今「アズマプロジェクト」とか自然派生的にやっていたいっているのですが、そういったものの位置づけをもっとはっきりして、「OBの集まりの会」だとかそういうような名前をつけて活動の位置づけをしたほうがいいかなと思っております。

【座長】はい、ぜひお願いします。

【〇〇委員】学習教材で「自然観察ガイドブック」というのを配布している、ということですけど、これはある程度毎年作っているんですか。前作ったやつですか。

【事務局】前に作ったやつですね。

【〇〇委員】それをまだ配布している。

【事務局】そうですね、はい。

【〇〇委員】まだたくさんあるんですか。

【事務局】まだ在庫のほうがあります。

【〇〇委員】そろそろ中身は少し改訂するとか付け加えるとか、何か考えられたほうが。まだたくさん残部があるならいいですけど。

【事務局】そうですね、まだ結構たくさん残部があるものですから。ちょっと「情報が古くなった」だとかそういったことがあればまた。

【〇〇委員】PRしてもらってね。しっかりと売ってもらって。また新しいものを作ってもらって。

【座長】はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

あの〇〇委員、いかがでしょうか。

【〇〇委員】私のほうは野鳥についてですけど、野鳥に関することがあればいいんですけど、あんまりないので。

【〇〇委員】ハチクマは営巢したんですか。

【事務局】ハチクマの営巢はまだ確認されていない状態です。委託調査の中でも、海上の森の外の愛知工業大学さんの建物の屋上をお借りして定点調査をして「全体的にみる」ということをやっているんですけど、ハチクマの飛来と移動、餌の運搬は確認されているんですけど、営巢そのものについてはちょっと確認できていないという状態です。

【〇〇委員】春にディスプレイフライトしている様子があったのですがけれども、あの里山のサテライトですかね、あっちのほうであったんですけども。あれがあれば、営巢する可能性は高いかなと思うので、ちょっと気にはしていたのですがけれども。また引き続きよろしく願いいたします。

【〇〇委員】それに関連してなんですけれど、その餌運びは何月頃確認されたんですか。

【事務局】あれが確認されたのは7月、8月頃だったかと。ハチの巣を運んでいるのが確認されています。

【〇〇委員】持って飛んで運んでいると。

【事務局】そうですね。ただそれも海上の森の外のほうに行ってしまったので、ちょっと実際どこに持って行っているのか、というところは追えていない状態なので、もしかすると海上の森や周辺で営巢している可能性はあるかもしれないんですけど、細かな部分は追えていなかった、という状態ですね。

【〇〇委員】個体数はどのくらい。8月の個体数。

【事務局】個体識別まではできていないのですが、同日で2個体、3個体が確認されたことはあります。

【〇〇委員】2, 3個体ですね。

【事務局】はい。オスメスともに確認されております。

【〇〇委員】オスメス。ありがとうございます。

【座長】今年の調査結果はいつ出るんでしたっけ。

【事務局】12月締めですので、そこから調査報告書のほうにまとめて、発行は次年度になってしまいます。

【座長】今年度の2回目の協議会には出てこないですか。3月にやるんでしたっけ。そこで速報でも出してもらえると。

【事務局】そうですね、はい。

【座長】また〇〇さんにも。はい。

〇〇さん、いかがでしょう。

【〇〇委員】今日初めてきたので、全くみなさんとは経験値というか少ない中で。後ほど、最後に発言させていただきたいなと思っております、これは思いというか願いということも含めて。ただ所長さんにはちらっと言っていた部分もあるんですけども、私この4月に環境課に来たのですが、その前は「こども未来課」ということで子供政策をやっていたんですね。子供の健全育成みたいところで、で、実体験として幼児から高校生・大学生、いろんな層の子供たちと色々な話をして、保護者の皆さんともお話をする中で、なかなかいまの子って、やれスマホ、やれテレビ、みたいところで動植物は知っているけれど実際触れたことがないとか見たことがない。トンボだって捕まえたことがないとか、クワガタにカチンとやられたこともないみたいな、そんな雰囲気の中で育っているな、というのがあって。瀬戸って本当に素晴らしいところがあって、海上の森みたいな素晴らしいフィールドがあって、瀬戸でせっかく暮らしているのに実体験がなくて、みたいな非常に寂しい思いをした経緯があるんですね。なんとか未来の子供たちにそんな体験なり、自分なりの気づきなり、話し合う場の提供だったり、なんか自分の力で活動していくような機会。そういったものがこれからすごく重要なんじゃないかというのが私の中の課題で、我々環境課の中でも「何か仕掛けていかなきゃいけないよね」というような話をしているところなんですけれど。そんな思いがありますので、こういった場が1つの機会になって、将来その子供たちがすごく自然環境なり生活環境なりに関心を持って、名大さんとか名工大さんとか、あるいは企業さんだとか、そんなところに目を向けてはばいていってくれるとすごくうれしいな、というのが、ちょっと漠然とはしているのですが、そんなことが私の中で思っていることですので。我々としても学校教育もしかりですけど、家庭教育も今なかなかそういった自然環境という部分はやっていないこともあるので、いかに役所としてつなげていくべきなのかな、というところを課題として背負っているところなので、お力添えいただいて様々な情報をいただきたいし、できることは我々もしていきたいし、というような。ちょっと「思い」に近いので恐縮なのですが、ぜひよろしくお願いいたします。

【座長】はい。いかがですか、瀬戸市との連携という部分については。

【事務局】そうですね、万博の20周年があるものですから、イベント等をやったりするものですから、そこでまた新たに来ていただいて、海上の森を知っていただいてリピータ

一になっていただくという、こういったスタイルをちょっとやっていきたいかなと思って
いるところですので、また一緒に協力してよろしく願いしたいと思います。

【〇〇委員】お願いします。

【座長】あの、僕も山の中に住んでいますけれど、子供たちは学校から帰ってきたらゲームしているだけで。そんな自然だらけの中でも山に入ったり川に入ったりということはほぼ無いですね。それはやっぱり大人が機会を作ってあげないと無い、ということなので。僕が住んでいる〇〇市はお父さんお母さんたちがグループを作っていて、毎月のように親子で自然の中で遊べたり体験できたりする企画をやっていましたね。何かそういう、こちらがお膳立てしてやるだけじゃなくて、そういうお父さんお母さんたちのグループがここに来て企画してやればいいかなと思いますね。

はい、ありがとうございます。ますますの連携、よろしくお願いします。

〇〇さん、いかがですか。

【〇〇委員】はい、ほとんど個人的なことになってしまうかもしれないですけど、たまたま瀬戸市の環境課長さんがいらっしゃいますのでついでもお願いしちゃおうかなと思って。本当に、今年ばかりはイノシシにビオトープをほとんど破壊されてしまって、「どうしたらいいか」というところは現在お手上げ状態。結局2年前にセンターの地続きの土地なんですけれど、民地の途中で大きな桜の木が何本もあって順番に倒れていったんですけれど、最後の最後のこんな大きな桜の木がちょうど2年くらい前にビオトープのほうへ倒れたんです。それを民地の方がなかなか回収していただけないものですから、センターの所長さんは「通れるからいいよね」ということですし、私のほうとしては通っているんですけどイノシシが入らないようにメッシュを買ったりなんかして、協力していただいておりますけれど。今年はそこをかいくぐって何頭も入って、もう無茶苦茶になっちゃっているんですよね。私たちではとっても手がつかない。

【座長】それ場所はどこなんですか。

【〇〇委員】すぐ下です。

【座長】ここの、降りたところね。

【〇〇委員】吉田川沿いの。

【座長】じゃあ海上の森から出てきたイノシシですかね。

【〇〇委員】ですからどうしようかなと。

【座長】ほんとに重機で掘ったように掘りますよね。

【〇〇委員】ええ。台風10号ですごい雨だったものですから、砂も一緒に入っちゃいまして。私たちでは手が出せないものですから。

【座長】海上の森の隣の場所ですので、やっぱり何らか連携してね。

【〇〇委員】海上の里のイノシシには毎日のように泣かされておりますし。

【座長】この問題は、森の中でも深刻な問題で「野生動物とどう付き合うか」という話なので、またちょっと検討していきたいなと。僕の家でも2枚田んぼやっているんですけど、今年1枚全滅しました。メッシュでやっていたんですけど、補強していないところを狙われるんですね。で、入れちゃって。ということで、農作物はもちろんですけど、こういう自然環境保全をやっているところに入っちゃっているのはまた厄介な問題ですよ。ぜひここでも協力していきたいと思います。ありがとうございます。

【〇〇委員】ありがとうございます。

【座長】〇〇さん、いかがですか。

【〇〇委員】特にうちのほうとしては、いろんな行事とかイベントをやっているんですけど、海上の森の会もかなり高齢化しています。なるべくですね、海上の森の会にこういうところをどんどん使ってほしい、と。「協力してくれ」だとか「こういうところの講師をやってくれ」だとかですね。これでいうとちょこちょこしか出てこないの、機会があればですね、なるべく相談といいますかお声がけいただいて、海上の森の会のメンバーに「誰ができるのか」というような話をしながら少しでも使ってもらわないと、海上の森の会の事務局や関係団体がどんどん萎んでいっちゃうので、なるべくセンターと海上の森の会とのつながりを密着にしていかないと、せっかくの組織が弱体化していっちゃうので、なるべく関係する会を活用してほしい、というふうに思っています。それをぜひお願いしたいなという話とですね、もう1つはさっきイノシシの話が出ましたが、里のほうで去年なんかはイノシシの影響で米がとれた量が少ない。で、今年もイノシシが何回も何回も入っておるんですね。フェンスも元々設置してからかなり年数が経っている。弱いところはすごい力で押してくるもんですから、抜本的に思い切ってやり直す。変な話、新城のほうにいくと村中を囲っているんですね。こっちは鉄の網を並べているだけなんですけれど、向こうは支柱をしっかりと立てて、村中を囲うような体制ができていて。そんな大きな面積ではないものですから、そこまで抜本的にやらないと、毎年毎年同じような補修、補修で。材料いくら投入してもですね、補修、補修になっちゃうので、集中的にやってガチンと作っちゃえば補修する箇所もだんだん減って来るだろうと思いますし、センターも地元も楽になるし、会のメンバーも楽になるので、「思い切って」という気持ちはあるんです。せっかく「里と森の教室」で子供さんもみんな来るんですよ。一生懸命田植えして、どうやこうやとやって、稲刈りで米がない。そんなんじゃ面目ないので、抜本的な対策をやっていただきたいと。そうすれば「安心して農作業ができる」ということもあるので、そのへんをぜひお願いしたいなと思っていますところです。携わっている人たちがこの地域を掌握しているはずなので、その人たちの意見をもっと活用しながらというのが重要じゃないかなと思いますので、よろしくお願いします。

【座長】はい。何かありますか。

【事務局】さっきの〇〇委員からの「村全体を囲う」ような話も出たんですけど、正直なところできることには限りがあって、集中的にある区域だけ、「この場所では耕作をやるからここだけ囲おう」とか、それくらいだったら現実的にできるかなと。「ここだけ集中的に作り直しましょう」とか、そういったことだったらできるかもしれないですけども、県有地と民有地が入り組んでいて非常に境界も複雑になるものですから、そういったところを全部やり直すのはしんどいかなと。正直なところ。耕作するところを小さく限っちゃってそこだけ集中的に、ということなら一緒にやれないことはないかなと思ったところですよ。

【〇〇委員】いっぺんにやると多分難しいと思うので、計画的に準備。柵がないといけなものですから、準備してやっていく方法もあるでしょうし、順次やれるところをやっていく。やるのであればガツンとしたものをやらないと、積み重ねていったら膨大な費用になっていると思う。それからあそこは民地が入っていますので、地域と、海上の森センターと、海上の森の会と、塊があるものですから、そこをみんなでフォローしていかなくやいかんと思うのですが、ぜひ県のほうに投資をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

【座長】イノシシもそうだしシカも増えてきているし、色んな野生動物とどうお付き合いするかということは答えがないんですね、どこでも。各地でいろんな工夫をやっているわけですけども、なかなか「これをやれば大丈夫」というものもないので、ある意味でそういう実験場というか色んな工夫をしてみる、そういう実験場としてここをやっていくというのもありかなと思いますので。「全体を柵で囲う」というのは僕が住んでいる地域でもやっているんですけど、毎年 1km ずつくらい囲うんですけど、囲いきれないんですよ、なかなかね。必ず開いているところがあるので、そこを逆に通って「道を歩いている」みたいな、山を歩いているのではなくて獣が「道を歩いている」というような状況が出てきていまして、なかなか決定打でもないところがありまして。なのでそういう野生動物の専門家の方にも入っていただいて、「どうしたらいいか」ということをここで実験していくみたいな、そんなことができるといいかなと思いますね。

【〇〇委員】実験をもしするのならね、さっき言ったみたいに囲うところだけ重点的に塞ぐんじゃなくて、「他はイノシシに食べられてもいい」と、「入ってきてもいいよ食べてもいいよ」というところを作って、それで被害の軽減ができるかどうか、やってみればいいんじゃないですかね。

【座長】なるほど。

【事務局】私ここ 2 年しかいないのですが、イノシシのほうも学習して覚えていて、だんだん巧みになっていくんですね。最初の頃は私聞いていたのは「1m とか 1m50cm やっておけば入らない」ということを聞いていて、「あ、そうかな」と去年見ていたんで

すが、今年は 1m50cm でも入っちゃうんですね。入り方もだんだん巧みになってきて、トタンをやっておかないと押して入っちゃうとか、要は柵沿いにぐるぐる歩いて 50kg とか 100kg の個体がバンバンとアタックしているみたいで、だんだん入り方がうまくなっている。押して隙間があるとそこに鼻を入れてぐっと入っちゃうとか、入り方も出方もうまくなっているみたいで。入ったあとどうやって出るのかと思うと、内側からフェンスをなぎ倒して、要は体重かけて網を倒して、そこでぴょんと出るのかわからないですけど、入るところと出るところは毎晩毎晩イノシシが学習しているみたいで巧みになってきていて、だんだん賢くなっている。あと言われたように「ここは食べてもいい」という場所を作ると毎日そこへ来て数が増えちゃうものですから、あんまりそういうことはやらないほうがいいかなと、いう感じが個人的にはしているんですけども。

【〇〇委員】まあ積極的にすごいたくさんやるんじゃないくて、ある程度自由にできるよと。食べ物はそんなにたくさんないけれど少しはあるくらいの感じでやれば人の分は守れるんじゃないかなと。

【事務局】個人的な感覚でちょっと「餌付け」しちゃうみたいで、集まってきちゃいそうな感じがするんですけど。

【座長】まあいろんなやり方があるとは思いますが。基本は「3点セット」と言われていて、1つは山際の本を伐って少し見晴らしを良くするとイノシシが出てきにくい、というのと、あとはフェンス、それから狩猟なんですね。結局被害を出すのはみんながみんなじゃなくて特定の限られた個体で、知恵を付けたとか味覚えたやつなんですね。なのでその個体を捕ると被害が無くなる、という話があって、ふつうはその「3点セット」といわれているんですけど。ここでは狩猟はできないですか。

【〇〇委員】檻はあるでしょ。

【事務局】有害捕獲のほうはしていただいています。狩猟は、禁猟区ではないです。やってはいないですが。

【〇〇委員】檻は瀬戸市で猟友会というのがありまして、海上の里だけでも 6 台くらいあるそうなんです。それで毎週火曜日か何かにメンバーの方がずっとまわってくださるんですけど、まだまだイノシシのほうがお利口で、ちょうど今はウリ坊、今年の春に生まれたのがもうウリ坊状態になって、団体でやって来るわけですね。最初にメッシュやっていたいたときを思うと、河川が深くなっちゃってる。そうするとその下から入って来るから、何回下のほうを補修してやってもまたどこか他のところから入っちゃう。ですから本当に毎晩毎晩の対策ですね。

【座長】電気柵はやっている？

【〇〇委員】一般のところはやってますけれど。

【〇〇委員】川から入ることのほうが多いと思うんです。ここらでも川がイノシシの道路

になっていますんで、

【座長】柵はやっぱり電気柵が基本といわれていて、なかなか難しいですね。

【〇〇委員】除草がね、ちゃんとしないと。漏電しちゃうものですから。

【座長】そうですね。ではぜひそれは次期計画で1つの中心課題として位置付けていただいて。保全しながらどうやって野生動物と共存していくかというテーマですね。

はい、ありがとうございます。

では〇〇さん。

【〇〇委員】今のことにに関して私の意見なのですが、イノシシとかシカに関しては共存のレベルを超えているようなところがあって、狩猟も必要かなとすごく思います。本当にバッファゾーン、例えば「ここにいるけどここに餌あるからいいよ」という、まだそんなに競争力の激しくない穏やかな日本の自然の中ではあるのかもしれないですけど、やっぱりある程度力で、数を減らしていかないと。天敵もないですし。ちょっともうそこまで来てるんじゃないかなという思いがあるんですね。狩猟のほうも力入れなきゃいかんのじゃないかなと思いました。

【座長】〇〇さんどうですか。全体をとおして。

【〇〇委員】今度新しい計画を作られるということで、これまでの形にとらわれずに、新しい発想でまた準備して作っていただきたいと思います。

【座長】〇〇さんいかがですか。全体をとおして。

【〇〇委員】各取り組みに対して成果がどうか色々整理されていると思うので、次の時に優先順位というかセンターとして「特にここが」というのがあればわかりやすいかなと思います。全部重要なんで全部書いていただいているとは思いますが、そういうのを次回やっていただければと思います。

【座長】はい、ありがとうございます。僕も〇〇さんと同じで、項目が分かれているんだけど、全体としてどこを目指していて、そこがどこまでできたのか、そういうような評価というんですかね。計画策定のほうでやらないといけないと思うのですが、例えば人工林のほうであれば「間伐をどこまで」「どこができていない」だとか、天然林のほうはどんどん遷移が進んでいて「どこまで遷移が進んでいるか」「今後どうしていきますか」みたいな。今は遷移が進んでいるので、本当に真っ暗な森に、すでになっている部分もあるんですけど、どの程度遷移が進んでいるのか、木がどの程度大きくなっているのか、だとかの情報があると良いかなと。人材育成のほうでは、アカデミーが10年経ったので見直しといいますか評価したうえで少しリニューアルしていったり、あとは現状とにかかわらず皆さんに来てもらわないといけないので、「開かれた海上の森・海上の森センター」にするためにどうすればいいか、という。もちろん保全というのは前提なのですが、保全しつつたくさんの人に来てもらう、というところで、もっともっとやることある

のかなと思います。そのへんが3つくらいの柱になるのかなと。そのへんでこの10年を振り返って「どうだったか」というのをまずみんなに共有してここに戻しましょう。そうすることがこれからできればいいかなと思います。よろしくお願いします。

ではこの進捗報告については大丈夫ですかね。

はい、では続いて資料4のほう、お願いします。

「(2) 協議事項 イ(資料4)」について事務局より説明

【座長】はい、ありがとうございます。これ「協議事項」ということなんで、ご意見いただければ。

私のほうから。ちょっと検討していただきたいのは、すごい大事な計画なので、やっぱりたくさんの方の意見を反映したものにできるといいなと思います。原案が出て来るのはこの委員会だけなので、我々も海上の森に関わっている人たちの意見を集約しているわけではないので、もう少しオープンな場でワークショップ的にいろんな意見をもらうような場をもっていったほうがいいんじゃないかなと思いますね。日頃ここに来られて活動されている方々もいるだろうし、一般の県民の方、「海上の森なんか知らない」という方の意見も聞いてみたいし。なんか少しオープンな場を作られて、いろんな方に自由に意見を言うていただくような、そういう場があってもいいのかなと思いますので。僕ら行政の計画づくりを色々支援しているのですけれど、市民のワークショップを必ずやるんですよね。なのでそういうノウハウを僕ら持っていますので、またご相談いただけるといいかなと思いました。

【〇〇委員】こういう協議会とかね、「市民委員」っていう、今どこでもそういう協議会を開催するときに市民委員を募集していることが多いんですよね。

【座長】そうですね、公募委員。

【〇〇委員】公募委員っていうのかな。そういうのをちょっと考えてもらって。あとはもう時間がないのですぐにやらなきゃいけないというのもあるんですけど。メンバーはどうやって決めるんですか。ここで決めるんですか。

【事務局】いや、ここではないですね。

【座長】〇〇さん。

【〇〇委員】これってどういう人がなったらいいか、というのがよくわからんじゃないですか。公募でやるのか、色々選択の仕方があるので。漠然としていて誰が入るのがよくわからない。イメージがつかめない。誰がいいのか、というのがイメージできない。

【座長】なので、ここが空欄ということは協議会で決めるわけではなくてセンターが決め

るということなので、むしろ「こういう人に入ってほしい」という要望をここで言うだけいいのではないですかね。

【事務局】それぞれの分野はだいたい決まっていますので、詳しい方がいたらまた推薦いただければ。

【〇〇委員】たとえばうちの会ではかって手を挙げてもらう、という話もありますか。

【事務局】当然、森の会が一番よくお付き合いしていますので、詳しい人ということで対象にはなるかなと。

【座長】バランスが大事だと思うんですね。海上の森を良く知っている、ずっと関わってこられた方と、それからちょっと対極的に色んな全国的・世界的なことをよくご存知な方と、バランスよく入っていただくといいかなと思います。
他いかがでしょうか。

【〇〇委員】〇〇先生おっしゃたことそのままなんですけれど、前回の委員を見ていたのですが、割と海上の森、愛知県に関わっている方々を委員にされていたのですが、〇〇先生がおっしゃったように全く外部の人も入れてもらえるといいのかなと。

【事務局】今のところ「海上の森のことをよくご存知な方」ということで考えておったのですが、前回委員をお願いしに行ったときに「あまり海上の森のことを知らないんでね」ということで断られた、というのもあったので、ちょっとそのへんも考えていきたいなと。

【座長】こういう、市民と行政と一緒に森を保全しているっていうのは世界中に今事例があって、やっぱりヨーロッパとかアメリカとかが進んでいるので、そのへんの事情も、最新の事情もわかっている人に入ってもらいたいかなと思いますね。

はい、よろしいですか。じゃあこれはまた検討していただきながら進めていただくということで、ここではこのへんにさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

はい、では一応議題としては以上ですが、その他、委員の皆様から、まず〇〇さんからこのフォーラムのほうをお願いします。

(3) その他

【〇〇委員】あいち海上の森フォーラムですけれども、以前もお知らせしましたが、11月24日に13時からですが開催させていただきます。今回は研究報告ということで、名古屋工業大学の篠田さんと前山さんに研究成果の発表をしてもらいます。特別講演は森林総合研究所の藤井一至さんに「土から考える暮らしと自然の持続性」ということで、オンライン参加ですけれども講演をしていただきます。あとは質疑応答と意見交換をしてい

たきますので、ぜひご参加をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【座長】 はい、よろしくお願いします。それから〇〇さんから。

【〇〇委員】 はい、当団体、公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会の昨年と今年の「シェアリングネイチャーライフ」という一般向けの冊子を年4回発行しております。昨年のがドングリをテーマにした旬な話題提供で、それから青いほうがセンス・オブ・ワンダー、レイチェル・カーソンの日本での協会長であり今94歳で東京にお住まいの方との対話のほうをいたしましたので、まさに未来の子どもたち、次世代の子どもたちに何を期待して、我々はどんなふうな支援をして自主的に子どもたちが、海上の森でいえば森の大切さを、今はAI中心の世の中ですので実体験、体験としてやってほしいかという上遠恵子さんのお言葉が最新版で出ておりますので、ぜひお読みいただけたらということで持参いたしました。よろしくお願いします。

【座長】 はい、大変充実した資料ですね。あとは委員の皆さんからよろしいですか。

【〇〇委員】 いいですか。今年の9月くらいに撮った写真で、見本の写真は違いますが、今年6月くらいにですね、赤池の奥ちょっと入ったところなんですけれど、100株近くくらいヤマジノホトトギスがあったんですけど、それがみんな盗られちゃったと。海上の森センターのほうから看板つけていただいて「ダメですよ」と。にもかかわらずこんな状況にあるということで、これは絶滅危惧種になっているのか何なのかよくわからないですけど、対策を何か考えなきゃいかんということが1点です。それからもう1点は、こういう事例があつて自然観察をされている方だとか自然が好きな方からみると大変ショックなものなんです。数百円で1株売れるそうなんです。たぶんそれで販売されちゃったんじゃないかなというような話をちょっと聞いています。それから、オオルリの幼鳥ですかね、それがどこかに持っていかれちゃったという話が。これは真実はちょっとわからないですけど。そういうことがかなりあるということは、そういう噂が出るということはそういうことがあるんだろうなと思います。1つは森林法違反ですね。もう1つは鳥獣保護法違反。はっきり言って法律違反であるということが事実なんです。それをなんとか対策をするにはどうするかということを前提案させてもらってですね、瀬戸警察署だとか森の会だとか、「瀬戸警察署」と書いてあれば「これはいかんぞ」という話になるので、何かそういう腕章を作るなり何なり、しょっちゅう出入りされる方の協力を得て「常に見張っているんだよ」ということを少しやってほしいなと前提案させてもらったんですけど、そういうことをやっぱりやっていただけたらというふうに思っておりますので、また検討のほうよろしくお願いします。

【座長】 はい、イノシシだけでなく人間が問題なんですね。

【〇〇委員】 人間が一番ね。

【座長】 人間が一番良くないですね。

【〇〇委員】昔は山口の駐在所の方がよく海上の森に来ていただいておりますよね。今はそんな付き合いはないですか。

【事務局】今は瀬戸署の所長さんと話す機会はあるって、そこで話したことはあります。

【〇〇委員】山口の駐在所の方に頼んでおけば、見回りくらいは少しやってもらえるかもしれないですね。

【事務局】定期的に来て、見回りはやっているみたいです。それがどれだけ抑止になっているかというのはまたちょっと別問題かもしれないですけど。

【〇〇委員】まあでもいると少しは抑止効果があるかと。

【座長】ではこれも保全活用計画の中で1つのテーマとして取り上げないといけないことですね。

【〇〇委員】過去に何回も言わせてもらってることでね。対策はやっただいてのですけど、それでは効果がなかったというわけではないと思うのですけど、効果が薄いと思いますので、

【座長】これも全国的な問題で、どこも悩んでいることなんですよ。

【〇〇委員】そうですね。

【〇〇委員】野鳥も販売するルートがどうもあるみたいで、〇〇で摘発されたところは自分のところの隠し部屋で販売していた。需要がまたあるというのがちょっと悲しいんですけど。

【座長】はい、じゃあこれはテーマとして取り上げていきましょう。
では最後に、この運営協議会はオブザーバーの方に最後発言の機会をもつということになっていまして、全体で5分以内ということで、それに対して答えたりはしないということで発言をしていただいておりますので、もし発言あればよろしくお願いします。

(傍聴人より発言)

【座長】はい、ありがとうございました。じゃあ事務局のほうにお返しします。

【事務局】〇〇座長様、委員の皆様、傍聴人の皆様、本当にありがとうございました。これで第1回の海上の森運営協議会を終了させていただきます。次回の運営協議会はですね、来年の3月くらいを予定しておりますので、またよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。